



ゴルフが取り持つ 名士たちとの出会い 本誌創刊55年の交悠録

本誌主幹

大中吉一

創刊55周年目の回顧録

我が『月刊公論』は、まもなく創刊55年を迎えます。長きに亘り、さまざまな出会いがありました。やはりゴルフを通じての出会いとお付き合いは欠かすことのできないものであり、回顧録として考えればどうしても起源の話になります。

私のゴルフの歴史は二十歳の時に始まりました。本誌の創刊2年目に、1年掛かりでお願いを繰り返して、やっとご登場いただくことになった細川隆元氏の対談がスタートしました。細川氏ならではの鋭い切り口と独特の視点での、各界の名士の皆さんとの対談は、当時の本誌における名物ページとなりました。

あるとき、キッコーマン醤油株式会社の前社長だった茂木啓三郎氏と細川氏の対談が行われました。時あたかも、野田醤油醸造株式会社がキッコーマン醤油株式会社と社名を変更して数年後のことだったと思います。そもそもキッコーマン醤油の始まりは1781年(天明元年)に遡るのですが、亀屋市郎兵衛、高梨兵



左衛門、粕屋七郎右衛門、茂木七左衛門、大塚弥五兵衛、杉崎市郎兵衛、竹本五郎兵衛の7家が野田で醤油を作り始め、その後、茂木家の用いていた商標である「亀甲萬」を基盤に、キッコーマンとカタカナ表記する社名が生まれたのです。当時は、サントリ(鳥井三兄弟のTORYと赤玉ポットワインの太陽SUNから名付けられた)やキャノン(観音カメラCANONカメラ)などカタカナの社名が増えつつあった時期であり、野田醤油醸造株式会社も新たな時代に向けて、細川隆元氏をはじめ、古い師の藤田少女姫さんなど、確か7~8名のメンバーで社名委員会を構成し、「キッコーマン」という名称が決まったと聞いております。

さて、細川氏と茂木啓三郎氏の対

談が終わったところで、細川氏から茂木啓三郎氏にゴルフのお誘いがありまして、それならと茂木社長が御子息である友三郎氏を同伴され、私は細川氏側のゲストとして一緒にさせていただきます。

これが、現キッコーマン株式会社取締役名誉会長・取締役会議長である茂木友三郎氏と私の最初の出会いとなったのです。

それから半世紀以上にも及ぶ茂木友三郎氏とのゴルフを通じてのお付き合いが始まったのです。

当日のコースはキッコーマンが所有する「千葉カントリークラブ梅郷コース」でした。

当日お会いした、まだ30代だった友三郎氏の名刺の肩書きには「海外事業担当課長」とあり、友三郎氏のその第一声は「こんどウイスイコンシンに醬油工場を作ります」というものでした。

そこで私は海外経験から醬油と肉の相性がとても良いことをお伝えし、きつと大当たりすると申し上げました。実際にその通りとなりました。いまキッコーマンの赤いキャップの醬油瓶は世界中で見られるように

なっているのはご承知の通りです。

さて、こうして始まった私と茂木友三郎氏のゴルフを通じてのお付き合いは、それ以来毎年2回、原則として春と秋に「ゴルフ交悠録」として続けられてまいりました。

以前にもご紹介しましたが、毎回、それぞれが必ず1人の友人を連れてコースに出るといふ原則と、コースはキッコーマン所有の野田カントリークラブ「梅郷コース」「野田コース」「川間コース」のどれかという原則を守り、100回以上も行われてきたゴルフ会なのです。

茂木友三郎氏との50年の交悠

今年も12月にこのゴルフ会を行な



千葉カントリークラブ野田コース



千葉カントリークラブ梅郷コース

うことになりました。今回のメンバーは茂木友三郎氏側のゲストが、衆議院議員、文部大臣、農林水産大臣などを歴任された島村宜伸氏、当方は新しく秘書担当となった大中公一を伴う予定です。

学習院では麻生太郎副総理の先輩にあたる島村宜伸氏は元野球部で、国会議員になってから始めたゴルフも、かつてはシングルプレーヤーだったと記憶しております。その島村氏の1番ホールから18番ホールまでのプレーぶり、財界人屈指の豊富な海外経験をお持ちの国際人、茂木友三郎キッコーマン株式会社取締役名誉会長の19番ホールでのウイットに富んだ会話を今から心待ちにし

ております。

私と茂木氏は、出会った当時から今まで、ずっとスクラッチで競ってまいりました。時にはチョコレートを取ったり、時にはチョコレートを取られたり、それこそ茂木友三郎氏と私の2人のメンバーが不変のまま50年以上も続いたゴルフ交遊録はなかなかないものと思います。

みなさんもぜひ、ゴルフを通じて長く、そしてより深く、多くの方たちとの交悠を深めていただけたらと思います。

末筆ながら、本誌創刊55年の御礼と、私とお付き合いいただいたゴルフ仲間の皆さんへの感謝を申し上げます。



千葉カントリークラブ川間コース